

# 高知県香美市佐岡地区に見られる景観の型と、その特徴

システム工学群 建築・都市デザイン専攻

1150178 吉田 一貴

## 1 計画の概要

### 1.1 課題

佐岡地区では、少子高齢化や減反政策によって人口が年々減少している。同地区の佐岡小学校は休校となっている。若い世代が減少することで、佐岡地区全体の活気が少なくなり、祭りなどのイベントも少なくなる。よって訪れる人口も減少すると考えられる。

また、人口減少によって、空き家が多く残されており、これが周囲の景観を損なっている。空き家の他にも、草木が生い茂っており、見通しが悪くなっている。このような、景観を損なう要因が多く存在している。

### 1.2 目的

佐岡地区の隠れた魅力を探し出し、新しい空間の提案をする。佐岡地区は、山に囲まれ自然であふれており、ランドスケープにおいてのポテンシャルが高い。この隠れたポテンシャルを活用するため、佐岡地区の地形や景観を読み解き、地域の隠れた魅力を探し出すものとする。また、隠れた魅力を顕在化するようなデザインを提案する。

## 2 佐岡地区の現状

佐岡地区は、高知工科大学の北西にあり、高知駅から、約18kmのところにある。総面積は約9km<sup>2</sup>である。佐岡地区は、山と川に囲まれた地域で、奥に行くほど標高が高くなっていく。また、道路は整備されており、山道だが自動車やバイクでも山を登ることができる。佐岡地区は、自然であふれており奥に進めば進むほど、山を登り、景色の良いところにたどり着く。しかし、写真1のようにデザインを施す必要の箇所も多々ある。写真1では、目の前の木が邪魔をして、本来なら見ることのできる高知工科大学付近の景色を見ることができなくなっている。また、使われていない小屋も放置されていることが多く、景観を損なっている。森の奥に突き進むと、古い車や空き家が放置されており、景観も損ない不気味である。このため、

外部の人にとって近づきにくい場所となっている。写真2では元々の景色が良く、魅力にあふれている。写真2のように元からのポテンシャルの高い空間は多く存在している。



図1 対象位置図

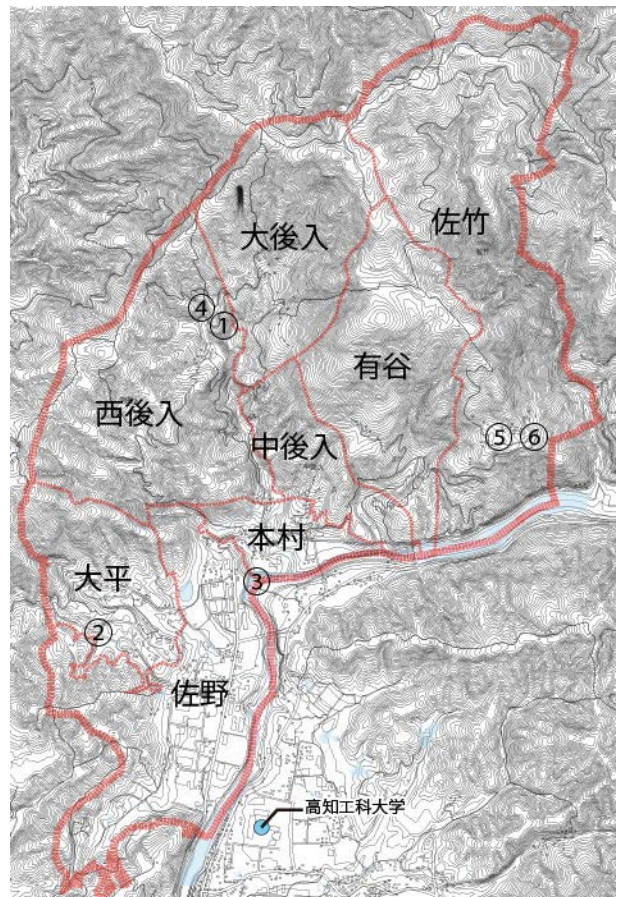


図2 佐岡地区と景観の型



写真1 佐岡地区西後入



写真2 佐岡地区佐野

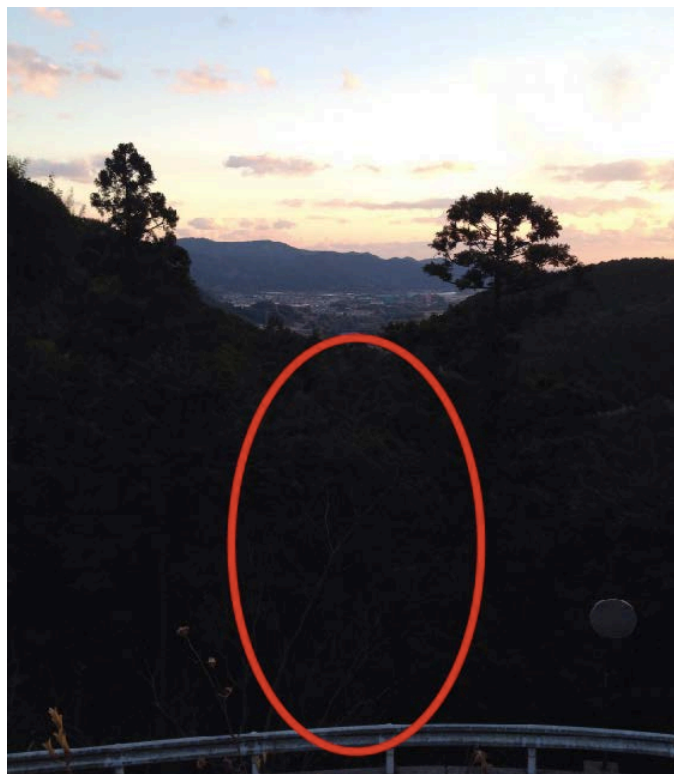


写真3 提案前の空間



図4 弧線型イメージ図

### 3 景観の型とデザイン

#### ①弧線型



図3 弧線型

佐岡地区では、山道がくねくね曲がりくねっており、飛び出た外側部分から眺めが良い場所が多い。このような空間を弧線型と名付ける。

一つの例として、佐岡地区の西後入にある風景で、写真3の空間をデザインする。まず、人間の両目視野は左右に約120°であり、両目で見た場合の視野に入る景色をデザインする。左右の視野に草木が入るようにデザインし、緑のカーテンの役割を果たすことで景色を切り取る。写真3の赤い丸部分を切り開くことで、図のように、佐岡地区の特徴である、物部川を景色に入れることができる。

#### ②天体ドーム型



図5 天体ドーム型

山や森に地上が囲まれた空間を天体ドーム型と名付ける。この地形は特にデザインをしなくても綺麗な景色を見ることができる。山に囲まれることで、自然の迫力を感じることや、市街地の光がシャットアウトされるので、星空を綺麗に見ることができる。

山や森に地上が囲まれた空間を天体ドーム型と名付ける。この地形は特にデザインをしなくても綺麗な景色を見ることができる。山に囲まれることで、自然の迫力を感じることや、市街地の光がシャットアウトされるので、星空を綺麗に見ることができる。

また、佐岡地区ではないが、高知工科大学付近は天体ドーム型に当てはまる。図4は、高い位置から天体ドーム型を見た景色である。

### ③流水景觀型



図6 流水景觀型

物部川の流れる向きに沿って、曲がり角にテラスを設置した空間を流水景觀型と名付ける。物部川の河畔は草木に囲まれ、踏み込みづらい場所になっている。テラスまでの道を切り開き、踏み込める空間を

確保する。図6のように、水上にテラスを設置したことで、川の上にいるかのような景色を楽しむことができる。また、水上なので、夏は涼しく、水の流れる音が聞こえ、心が落ち着く空間になっている。



図7 流水景觀型イメージ図

### ④小滝見型

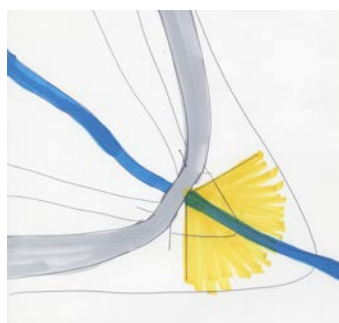


図8 小滝見型

谷に流れている水の上に橋が架かっている。流れ落ちる水からできる小さな滝を見る空間のことを小滝見型と名付ける。図9のように、滝の周りを草木で覆い、滝部分を借景している。設置したベンチからでないと見る

ことができないようにすることで、神聖感をもたらす。また、小滝見型は山の奥にあるので、夏は涼しく、見た目や水の流れ落ちてくる音も聞こえ、爽やかな空間

を醸し出している。



図9 小滝見型イメージ図

### ⑤山間平地型

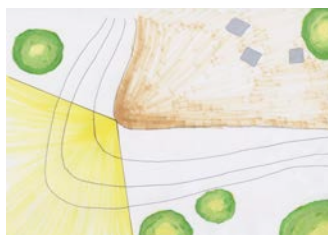


図10 山間平地型

山の中にも平地部分があり、山間にあることが多い。平地部分の隣は絶壁になっており、見晴らしの良い空間であり、この空間を山間平地型と名付ける。写真4では目の前に草木が

生い茂っており、見通しが悪かった。図11のように、デザイン後は、草木がなくなったことで、川が見えるようになり爽やかな景色が見えるようになった。



写真4 提案前の空間



図 1 1 山間平地型イメージ図



図 1 3 森林浮遊型イメージ図

#### ⑥森林浮遊型

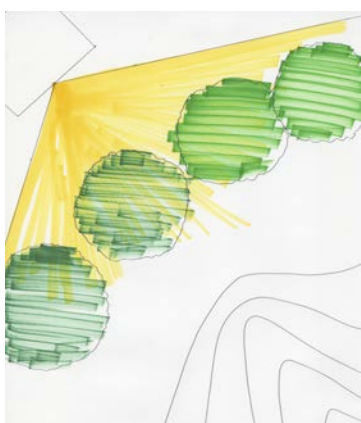


図 1 2 森林浮遊型

山並みの下半分が、草木に隠れることで山が空に浮いているように見える空間を森林浮遊型と名付ける。写真5の状態では山のとっぺんだけを見ることができ、山並みが浮いているように見える。しかし、木が高すぎており山が見えづらい。そ

こで、図13のように中央の草木を低くすることで、山は見えつつ、空に浮いているような空間を作り出している。また、展望台を設置して、より山並みが見えやすいようにする。

#### 4 結論

佐岡地区には、自然があふれており景色の良い空間が多々存在する。しかし、草木に隠れて景観が損なわれているところが多く存在する。佐岡地区には、いろいろな型があり、それぞれに型の意味がある。ポテンシャルは高くても、景色を活かすことができなければ宝の持ち腐れであり、いろいろな地形にあった空間を作ることで初めて景色が生きてくる。地形の特徴を強調することで、魅力的な景観を作り上げることができる。

また、見るだけでなく、水の音、風の音などの自然で発生する音を聞くことも、景観の一部である。時間帯や、天候や、季節によっても景色の印象も大きく変わり、1秒1秒表情を変えていく。この違う表情を見ることが景観の楽しみの一つである。

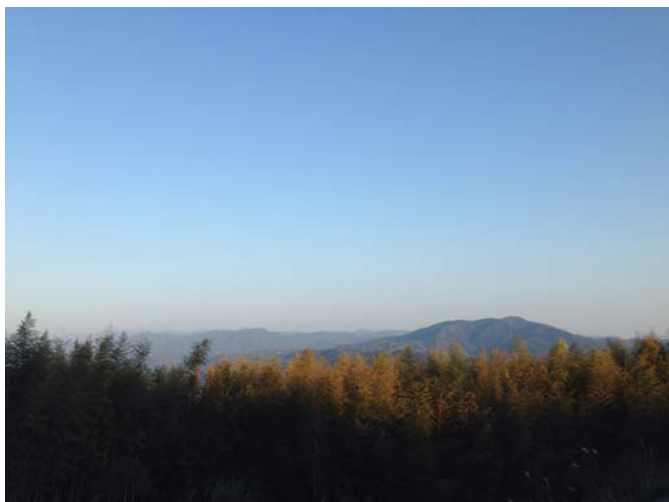


写真5 提案前の空間